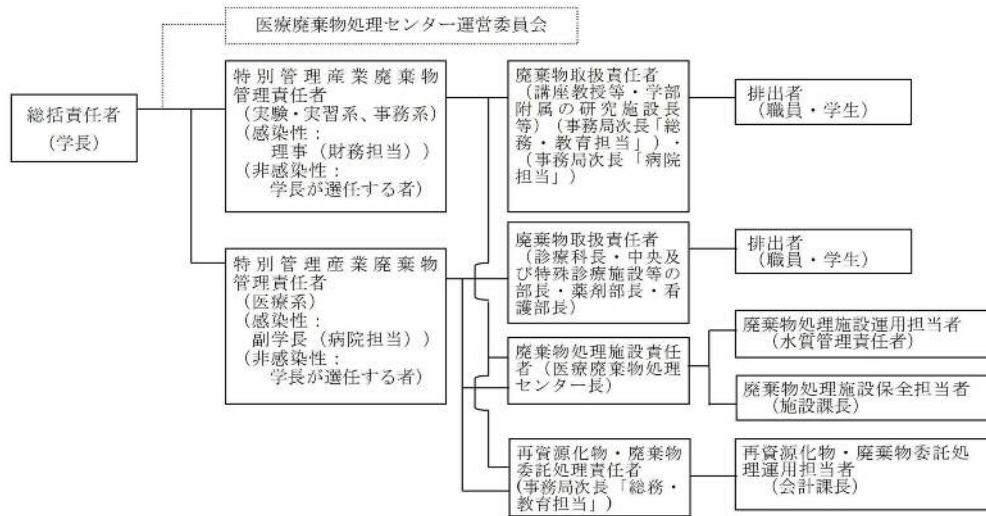


様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)
(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書		令和5年5月31日
浜松市長 殿		
提出者		
住所 浜松市東区半田山一丁目20番1号		
氏名 国立大学法人浜松医科大学長		
今野 弘之		
電話番号 053-435-2111		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量 その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。		
事業場の名称	国立大学法人浜松医科大学	
事業場の所在地	浜松市東区半田山一丁目20番1号	
計画期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項		
① 事業の種類	大学・病院	
② 事業の規模	学生数1,195名・病床数613床	
③ 従業員数	2,553名	
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	廃棄物の収集運搬、焼却、溶融等の処分を外部に委託している。	

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油
	排出量	304.030 t	1.025 t
	(これまでに実施した取組) △病院整備により手術件数が増加し、それにもない感染性廃棄物が年々増加してきており、排出の抑制に苦慮している。 ・感染性廃棄物と非感染性廃棄物との分別の徹底 ・有害な薬品についての使用量の抑制		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油
	排出量	310.000 t	1.500 t
	(今後実施する予定の取組) ・感染性廃棄物と非感染性廃棄物との分別の徹底 ・有害な薬品についての使用量の抑制		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・感染性廃棄物と他の廃棄物の分別方法を分かりやすくイラスト化した「廃棄物分別処理方法（概略図）」の作成および感染性廃棄物分別方法の教育
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・上記の感染性廃棄物分別方法の教育の継続

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度（令和4年度）実績】

特別管理産業 廃棄物の種類	廃酸 (有害)	廃アルカリ (有害)	汚泥 (有害)	腐蝕性廃酸	腐蝕性 廃アルカリ	廃水銀等	引火性廃油 (有害)	廃油 (有害)	廃石綿等 (飛散性)
排 出 量	0.087 t	0.031 t	0.002 t	0.443 t	0.063 t	0.000 t	0.000 t	0.279 t	0.000 t

(これまでに実施した取組)

△病院整備により手術件数が増加し、それにともない感染性廃棄物が年々増加してきており、排出の抑制に苦慮している。

- ・感染性廃棄物と非感染性廃棄物との分別の徹底
- ・有害な薬品についての使用量の抑制

②計画

【目標】

特別管理産業 廃棄物の種類	廃酸 (有害)	廃アルカリ (有害)	汚泥 (有害)	腐蝕性廃酸	腐蝕性 廃アルカリ	廃水銀等	引火性廃油 (有害)	廃油 (有害)	廃石綿等 (飛散性)
排 出 量	0.080 t	0.050 t	0.005 t	0.100 t	0.050 t	0.002 t	0.000 t	0.200 t	0.000 t

(今後実施する予定の取組)

- ・感染性廃棄物と非感染性廃棄物との分別の徹底
- ・有害な薬品についての使用量の抑制

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0.465 t	t
	(これまでに実施した取組) ・病院病理部におけるキシレンリサイクラーの運用		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0.600 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・キシレンリサイクラーの円滑な運転		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・なし		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・なし		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	引火性廃油
	全 処 理 委 託 量	304.030 t	1.025 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	227.240 t	1.025 t
	再 生 利 用 業 者 へ の 処 理 委 託 量	—	—
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	—	—
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	76.790 t	—
	(これまでに実施した取組) ・廃棄物委託業者の現地確認		

(第4面の別紙)

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項										
【前年度（令和4年度）実績】										
特別管理産業廃棄物の種類		廃酸 (有害)	廃アルカリ (有害)	汚泥 (有害)	腐蝕性廃酸	腐蝕性 廃アルカリ	廃水銀等	引火性廃油 (有害)	廃油 (有害)	廃石綿等 (飛散性)
全 処 理 委 託 量		0.087 t	0.031 t	0.002 t	0.443 t	0.063 t	0.000 t	0.000 t	0.279 t	0.000 t
① 処理委託先	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0.087 t	0.031 t	0.002 t	0.443 t	0.063 t	0.000 t	0.000 t	0.279 t	0.000 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	—	—	—	—	—	—	—	—	—
（これまでに実施した取組） ・ 廃棄物委託業者の現地確認										

②計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種	感染性廃棄物	引火性廃油	
	全 処 理 委 託 量	310.000 t	1.500 t	
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	210.000 t	1.500 t	
		再生利用業者への処 理 委 託 量	—	—
		認定熱回収業者への処 理 委 託 量	—	—
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	100.000 t	—
	(今後実施する予定の取組) ・ 廃棄物処理法に定める委託基準に基づく委託契約の締結とその遵守 ・ 委託業者の適正処理の確認			
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度（令和4年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	305.96 t		
	(今後実施する予定の取組) ・ なし			
※事務処理欄				

②計画	【目標】										
	特別管理産業廃棄物の種類		廃酸 (有害)	廃アルカリ (有害)	汚泥 (有害)	腐蝕性廃酸	腐蝕性 廃アルカリ	廃水銀等	引火性廃油（有害）	廃油 (有害)	廃石綿等 (飛散性)
	全 処 理 委 託 量		0.080 t	0.050 t	0.005 t	0.100 t	0.050 t	0.002 t	0.000 t	0.200 t	0.000 t
		優良認定処理業者への処理委託量	0.080 t	0.050 t	0.005 t	0.100 t	0.050 t	0.002 t	0.000 t	0.200 t	0.000 t
		再生利用業者への処 理 委 託 量	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		認定熱回収業者への処 理 委 託 量	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	(今後実施する予定の取組)										
・ 廃棄物処理法に定める委託基準に基づく委託契約の締結とその遵守 ・ 委託業者の適正処理の確認											

(第 6 面)

備考	
1	前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
2	当該年度の 6 月30日までに提出すること。
3	「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。 (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。 (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。 (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまで
4	の一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、 自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自
5	ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、 埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなっ
6	た産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理 委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令 第 6 条の14第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者 （廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却 処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、 前年度実績、目標及び取組を記入すること。
7	それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記 入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が 3 以 上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入し た別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
8	※欄は記入しないこと。